

診療報酬明細書データ解析用マスタの作成 (慢性腎疾患)

研究分担者 盛一 享徳 (国立成育医療研究センター小児慢性特定疾病情報室 室長)

研究分担者 横谷 進 (福島県立医科大学 ふくしま国際医療科学センター特命教授/甲状腺・内分泌センター長)

研究要旨

【背景】診療報酬明細書データには、治療や処置などの診療行為の記録が蓄積されており、疾患研究に有益であるリアルワールドデータとして期待されているが、注目する疾患に関するデータを抽出するためには、疾患に該当するレセプト傷病名を全て集めた病名リストを作成しなければならない。これは研究者にとって非常に負荷が高い作業であることから、疾病研究の基盤整備として、小児慢性特定疾病に対する傷病名マスタを作成することを試みた。

【方法】本研究班で作成している小児慢性特定疾病の対象疾病に対する ICD-10 ならびに代表的なレセプト傷病名コードを附番した疾病名リストを基本として、該当する疾病に対する全レセプト傷病名の抽出を行った。

【結果】51 の対象疾病に対し合計 257 疾患の標準病名が紐付いた。1 対象疾病あたりの対応は中央値 2、第一四分位 1、第三四分位 5、最大 64 疾病であった。疾病の定義上、包括的病名に多くの標準病名が対応することとなった。

【結論】研究者にとってレセプト傷病名の抽出は非常に負荷がかかる作業であったが、本研究の結果を利用することで、診療報酬明細書データを利用した疾病研究が進むことを期待したい。

A. 研究目的

診療報酬明細書データ (以下、レセプトデータ) には、実際に行われた投薬や処置などの治療実績が記録されており、医療分野のリアルワールドデータの一つとして研究利用が期待されている。レセプトデータは、その性質上、処方箋ごとのレコードとなっているが、医師等が研究を行う場合は、疾患単位で分析を行うことが多い。レセプトデータで利用されているレセプト傷病名は、一般財団法人医療情報システム開発センター (MEDIS) が管理する標準病名マスタが利用されることが多いが、現在用いられている

標準病名マスタには 2 万 5 千以上の病名が含まれており、この中には同一疾患概念の病名が不連続に多数含まれていることが度々ある。

我々は小児慢性特定疾病の対象疾病に対し、これまで ICD-10 コードと代表的なレセプト傷病名コードの附番を行ってきた。以前は希少疾病を多く含む小児慢性特定疾病に該当するレセプト傷病名が存在しない場合が散見されていたが、最近では MEDIS 標準病名マスタへの収録が進み、ほとんどの対象疾病に代表的なレセプト傷病名が対応するようになった。

しかし過去データの集積であるレセプトデータの解析を行う場合は、注目する疾病について、

該当する可能性のあるすべてのレセプト傷病名コードを抽出する必要があり、この作業は研究者にとって非常に負荷の高い作業となっている。

本研究では、株式会社 JMDC との共同研究として、小児慢性特定疾病の慢性腎疾患に含まれる対象疾病について、代表的なレセプト傷病名コードだけではなく、該当する可能性のあるコードをすべて列記したマスタの作成を試みた。

B. 研究方法

本研究班で作成した小児慢性特定疾病に対する ICD-10 コードおよび代表的なレセプト傷病名コードを基本リストとし、MEDIS 標準病名マスタ Ver. 5.10 とそれ以前のマスタとの対応表を作成した。主な手順は以下の通り。

1. 標準病名マスタに対し、疾病名を検索軸として完全一致および表記違いを考慮した基本リストを作成（漢字・かなの対応、英数字・カナの対応など）
2. 標準病名を検索軸として、交換用コードを利用した同義語の抽出、「先天性」の語句の有無を吸収、名称部分一致の抽出
3. 小児慢性特定疾病における大分類名から設定した標準病名を検索軸とし、小児慢性特定疾病の包括的病名に対して標準病名を設定
4. 小児慢性特定疾病における大分類名に該当する ICD-10 コードに該当する標準病名を軸として表記の揺らぎを吸収
5. 包括的病名や判断を保留した標準病名に対する確認

基本リストとなる代表的なレセプト傷病名コードと ICD-10 コードの選択は国立成育医療研究センターで行い、標準病マスタからの候補コードの抽出は JMDC が実施した。機械的作業による判断が難しい候補については、医学的な判断も含め国立成育医療研究センターが行った。

（倫理面の配慮）

本研究は、公開されているデータを用いた研究であり個人情報を含まないことから、特別な倫理的配慮は必要ないものと判断した。

C. 研究結果

作成した対応表の抜粋を表 1 に示した。小児慢性特定疾病については、医学的な利便性を考慮して、小児慢性特定疾病情報センターウェブサイト (<https://www.shouman.jp/>) における疾病の並びと表記を元にした。作成されたデータには、小児慢性特定疾病の大分類名、細分類番号、細分類名（対象疾病見名）、標準病名、レセプト傷病名コード（レセプト電算コード）、ICD-10 コード 1、ICD-10 コード 2 が含まれた。

D. 考察

1. MEDIS 標準病名マスタとの比較

小児慢性特定疾病は希少疾病を多く含み、また疾患概念が比較的新しい疾病も多く含まれている。今回の検討では、標準病名マスタに含まれる該当病名をすべて紐付けるという初の試みであったことから、疾患概念が固まっておらず病名の揺らぎが比較的少ない疾病領域であることを優先し、慢性腎疾患群を選択した。

近年 MEDIS 標準病名に小児慢性特定疾病の多くが収載されるようになったこともあり、今回全く標準病名と対応しない対象疾病は存在しなかった。

小児慢性特定疾病における慢性腎疾患は、包括的病名を含む 51 疾病あり、対応する標準病名として 257 疾患が紐付けられた。最小値 1、最大値 64、中央値 2、第一四分位 1、第三四分位 5 疾患、であった。包括的病名には、その定義上、比較的多くの標準病名と紐付いていた。

腎疾患では、病理組織像を元にした病理診断名（例：巣状分節性糸球体硬化症）と病態や病状を元にした病態名（例：ステロイド依存性ネフローゼ症候群）の異なる二つの表現方法が混在している。小児慢性特定疾病の対象疾病名は、病理診断名を中心に構成されていることから、

病態名を表す標準病名については、病理組織名のうち、比較的頻度が高いと思われる病態名について紐付けを行った。同様に小児慢性特定疾病における包括的病名には、様々な疾患が含まれる可能性があるが、今回の検討では、小児慢性特定疾病の対象疾病という枠組みから大きく外れないことを優先した。

2. 標準病名との対応の限界

標準病名の中には、解釈が難しいものや対応付けが難しいものが存在した。可能な限り医学的に正しい対応付けを行ったつもりであるが、実際に対応を是とするかどうかは、本マスタの利用者の判断に委ねた部分があった。

3. ICD-10 コードとの対応

本検討では、一部標準病名マスタが提示している ICD-10 コードと我々が検討した ICD-10 コードが不一致になる場合があった。原則として標準病名マスタによる ICD-10 コードに統一した。

E. 結論

小児慢性特定疾病の慢性腎疾患に対するレセプト傷病名一覧を作成することができた。レセプト分析において、傷病名コードをまとめる

作業は重要だが非常に負荷の大きい作業であるが、本研究によるマスタを用いることで、直ちに分析作業にとりかかれる環境ができたと言える。今後、他の疾患群についても同様のマスタを整備してゆきたい。

F. 研究発表

なし。

G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

特許取得/実用新案登録/その他
なし/なし/なし

謝辞

本研究は株式会社 JMDC が進める子どものための疾病研究促進プロジェクト「BIG DATA FOR CHILDREN」の一環として、無償で研究協力をしていただいた成果の一つである。慢性腎疾患のレセプト傷病名マスタについては、以下のウェブサイトからダウンロードが可能である。

「BIG DATA FOR CHILDREN」ウェブサイト
<https://www.bigdataforchildren.jp/>

表 1 慢性腎疾患 小児慢性特定疾病とレセプト傷病名の対応表(抜粋)

大分類名	対象疾病名 No.	対象疾病名	標準病名	レセ電コード	ICD10 - 1	ICD10 - 2
ネフローゼ症候群	1	フィンランド型先天性ネフローゼ症候群	フィンランド型先天性ネフローゼ症候群	8849833	N049	
ネフローゼ症候群	2	びまん性メサンギウム硬化症	びまん性メサンギウム硬化症	8849828	N048	
ネフローゼ症候群	3	微小変化型ネフローゼ症候群	微小変化型ネフローゼ症候群	8839471	N040	
ネフローゼ症候群	3	微小変化型ネフローゼ症候群	微少変化型ネフローゼ症候群	5819022		
ネフローゼ症候群	3	微小変化型ネフローゼ症候群	一次性ネフローゼ症候群	8849711	N049	
ネフローゼ症候群	3	微小変化型ネフローゼ症候群	ステロイド依存性ネフローゼ症候群	8848070	N049	
ネフローゼ症候群	3	微小変化型ネフローゼ症候群	ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群	8835738	N049	
ネフローゼ症候群	3	微小変化型ネフローゼ症候群	頻回再発型ネフローゼ症候群	8839430	N049	
ネフローゼ症候群	4	巣状分節性糸球体硬化症	巣状分節性糸球体硬化症	8850032	N051	
ネフローゼ症候群	4	巣状分節性糸球体硬化症	巣状糸球体硬化症	4039038	N051	
ネフローゼ症候群	4	巣状分節性糸球体硬化症	巣状分節性糸球体硬化症ネフローゼ症候群	8850255	N041	
ネフローゼ症候群	4	巣状分節性糸球体硬化症	ステロイド依存性ネフローゼ症候群	8848070	N049	
ネフローゼ症候群	4	巣状分節性糸球体硬化症	一次性ネフローゼ症候群	8849711	N049	
ネフローゼ症候群	5	膜性腎症	膜性腎症	5831004	N052	
ネフローゼ症候群	5	膜性腎症	膜性糸球体腎炎	8840228		
ネフローゼ症候群	5	膜性腎症	びまん性膜性糸球体腎炎ネフローゼ症候群	8839551	N042	
ネフローゼ症候群	5	膜性腎症	一次性ネフローゼ症候群	8849711	N049	
ネフローゼ症候群	6	ギャロウェイ・モワト (Galloway-Mowat) 症候群	ギャロウェイ・モワト症候群	8848496	Q897	
ネフローゼ症候群	7	1 から 6 までに掲げるもののほか、ネフローゼ症候群	びまん性膜性糸球体腎炎ネフローゼ症候群	8839551	N042	
ネフローゼ症候群	7	1 から 6 までに掲げるもののほか、ネフローゼ症候群	ステロイド依存性ネフローゼ症候群	8848070	N049	